

※ 解答は、《解答らん》に書きましょう。

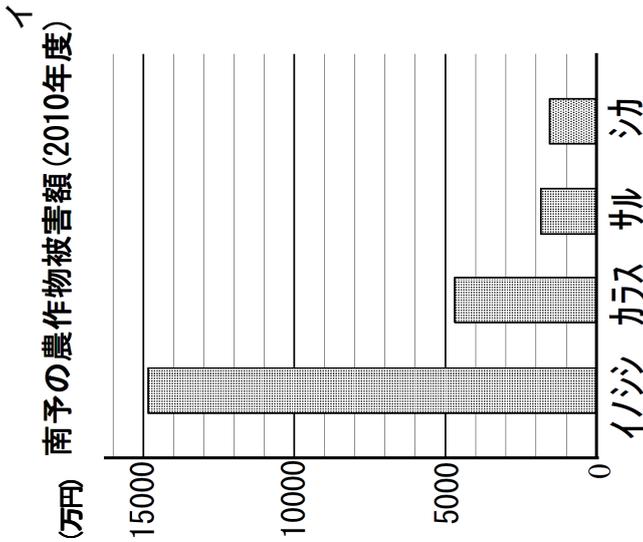
森下さんは、体験したことやグラフをもとにして、次の意見文を書きました。これを読んで、あとの問いに答えましょう。

【意見文】

夏休みに、祖父の家遊びに行った時のことです。夜、山すそにある祖父の畑の前を通りかかると、あちらこちらに青く光るものがありました。近づくと、光の正体は、^{*}LEDライトでした。

祖父は、数種類の野菜を育てています。ところが、近年、イノシシによつて畑が荒らされ、年によつては作物がほとんど収かできなくなりました。そこで、昼間にためておいた太陽の光を使って、夜になったらLEDライトを光らせる装置を取りつけました。そのおかげで、夜間、イノシシが畑に入ることがなくなったということです。

愛媛県が調べたところでは、二〇一〇年度の野生生物による農作物の被害額は、前年度を一億円以上上回り、そのうちの半分以上をイノシシがしめています。また、祖父の住む南予地方のイノシシ被害は、他の地域よりも大きくなっています。

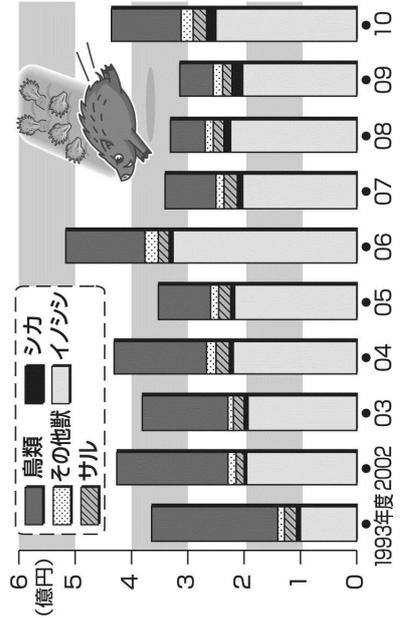


では、どうしてイノシシ被害が増えたのでしょうか。

祖父の話では、イノシシは、もともとなだらかな場所を好むのだそうです。ところが、人間が平野を開発したため、しかたなく山に住むようになりました。しかも、狩りやりよ

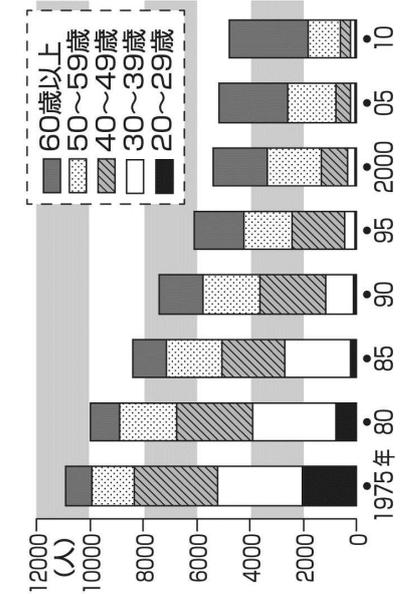
ア

県内の農作物の被害額



ウ

県内の狩猟免許所有者と年齢別内訳



うをする人たちは、イノシシを求めて山に入っていました。人間がイノシシを山のおくへと追いやったともいえます。

しかし、最近、狩りやりようをする人たちの数が減るとともに、高齢化が進んでいます。その結果、人間があまり山に入らなくなりました。また、耕作をしなくなった土地が増え、イノシシがえさをとつたり、ねたりするのに最適な環境が整ってきました。そのため、多くのイノシシが平野で活動するようになりました。

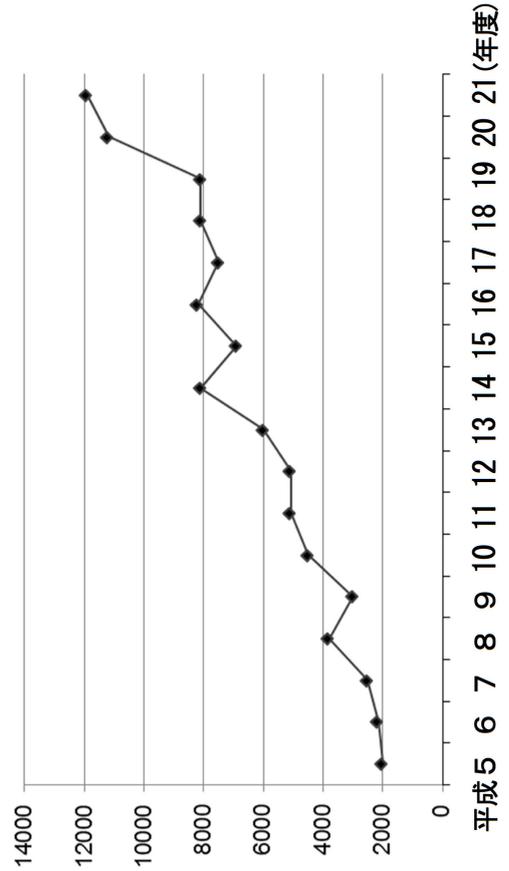
今回、イノシシ被害について調べてみて、分かったことがあります。それは、「被害」というのは、(①) の側に立った見方であるということです。イノシシから見れば、過ごしやすい土地に帰ってきて、おいしいものを食べているだけなのだと思います。にもかかわらず、県内で人間に捕らえられるイノシシの数は、平成五年度から二十一年度までの十六年間で、およそ (②) 倍になっています。

わたしは、イノシシ被害の背後には、人間の無理な開発があると思います。それを認めたらうで、イノシシ、人間、どちらにも配りよした対策を取るべきではないかと考えます。

※ LED:発光ダイオード。

エ

県内のイノシシの捕獲数 (頭)



イノシシ、人間、どちらにも配りよし

一 【意見文】の (①) に当てはまる言葉を漢字二字で書きましよう。

二 【意見文】の (②) に当てはまる数字を漢字で書きましよう。

三 【意見文】の——線部「南予地方のイノシシ被害」が「他の地域よりも大きい」ことを二つのグラフを使って説明します。次の条件に合わせて、説明の文章を書きましよう。

〈条件〉

- アからエまでのグラフのうち、説明に必要なものを二つ選び、その記号を使って書くこと。
- 八十字以上、百二十字以内にとどめて書くこと。
- 数字を用いるときは、次の例にならって漢字で書くこと。

〈例〉二〇一三年十月現在の日本の人口は、およそ一億三千万人である。

シート 16 正答例

一 人間

二 六

三

(例 1)

アのグラフからは、県全体のイノシシ被害額がおおよそ二億五千万円、イのグラフからは、南予地方のイノシシ被害額がおおよそ一億五千万円であることが分かります。したがって、南予地方のイノシシ被害額は、県全体のおおよそ五分の三に当たります。

(113 字)

(例 2)

アとイの二つのグラフを比べると、二〇一〇年度の南予地方のイノシシ被害額おおよそ一億五千万円は、県全体の被害額おおよそ二億五千万円の半分以上をしめることが分かります。(81 字)